

2015年度 FUJITSUファミリー会 秋季大会

2015年度のFUJITSUファミリー会秋季大会が11月19日、香川県高松市で開催されました。全国から1,200人を超える会員や関係者が参加し、著名人による講演や、迫力のパフォーマンスを堪能。懇親会では、会員同士が積極的に交流し、絆を深めました。



FUJITSUファミリー会 会長
下條 泰利 氏



香川県 知事
浜田 恵造 氏



富士通株式会社 代表取締役会長
山本 正巳 氏

秋季大会は、高松駅に近い複合施設・サンポートホール高松の大ホールで開催。下條泰利会長は冒頭、「全国にあるファミリー会の活動を活発にし、日本を元気にするお手伝いをしていきたい」と挨拶されました。次に来賓の香川県の浜田恵造知事が、高松開催を歓迎し、祝辞を述べました。続いて富士通の山本正巳会長は、大勢の方々が集ったことに感謝を表した後、「IoT などテクノロジーは進化を続けています。この流れの中で、日本経済の発展、さらには世界の人々の幸せのため、お客様と共に貢献していきたい」と語りました。

特別講演は、高知の英雄・坂本龍馬を題材に谷是氏。記念講演では、愛媛県出身の演出家・鴻上尚史氏が軽快なスピーチを繰り広げ、会場が何度も笑いに包まれました。さらに四国スペシャルイベントとして、はかま姿の女子高校生たちが一糸乱れぬフォーメーションで、まるでダンスのような動きを披露しながら書道の作品を完成させました。会場は大いに盛り上がり、称賛の声が上がりました。

3会場で同時進行したセッションの後は、場所を移動し、隣接する JR ホテルクLEMENT高松で懇親会が開かれました。終始、和やかな雰囲気の中、会員同士が歓談。次回開催地・北陸での再会が呼びかけられ、閉幕しました。



特別講演

『坂本龍馬がめざした 政治、社会』

土佐史談会 副会長
谷 是 氏

日本の歴史の中で最も人気が高い偉人の一人、坂本龍馬。高知県の誉れでもある。しかし、龍馬が活躍したのは、実は、晩年だけ。28歳で勝海舟と会うまでは、一庶民と同じだった。ひとつの出会いが運命を動かし、33歳までの激動の5年間を駆け抜けた。龍馬が秀逸だったのは、「外から見る発想」と、人の「ネットワーク」。そんな龍馬の数々のエピソードや、勝海舟との逸話を、当時の人々が話したであろう口調で再現しつつ、熱く語っていただいた。

〈プログラム変更のお知らせ〉367号で特別講演の講師としてご案内しました森健志郎氏は2015年11月2日、急逝されました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

ご参加者の声

坂本龍馬が新しい時代を拓くために、日本各地を奔走して様々な人と掛け合い、そして「経済」に着目して盤石に築いていった過程が分かりました。登場人物がとて多かったので、どれだけ多くの人が倒幕のために動いていたのか、その躍動感が伝わりました。



記念講演

『表現のレッスン』

作家・演出家
鴻上 尚史 氏

愛媛出身の演出家・鴻上尚史氏は、コミュニケーションの「三つの輪」という話を軸に、表現のコツについて講じた。欧米では、企業のエグゼクティブがスピーチの方法を演劇の先生から習う。一方、日本人はコミュニケーションはテレパシーのようなもの、気持ちを込めれば伝わるといったスタンスの人が多く、国際的なプレゼンテーションの場面で損することもある。鴻上氏は、様々なエピソードを盛り込み、意思伝達の方法を解説。絶妙な語り口で、日常でよく聞くおかしな会話の例が挙げられ、その度に会場では笑いの渦が巻き起こった。

(本号の P12~ 13に講演録を掲載しています)

ご参加者の声

「状況と言葉のミスマッチ」について、豊富な用例を示しながら分かりやすく解説していただきました。自分の置かれている状況に合った言葉の選択の重要性が理解できました。面白おかしく話をされる中にも、「企業のマニュアルが日本語をダメにしている」など鋭い指摘もあり、あっという間の80分でもっと話を聞きたいと感じました。

書道パフォーマンス

書の芸術、観客を圧倒

四国スペシャルイベントとして、華麗に舞い、力強い作品を仕上げたのは、香川県立高松商業高等学校の書道部の皆さん。「情熱大陸」の音楽に合わせ、大小様々な筆を駆使し、流れるように進む書の芸術に、観客は感動の渦に包まれました。中には、涙ぐむ方も。

同校は、第8回全国高校書道パフォーマンス選手権大会の優勝校。3年生が引退し、今は1、2年生を中心に活動しています。使用した用紙は、一番大きなサイズで縦4m、横6m。ファミリー会員の丸住製紙株式会社から提供されました。



パフォーマンスは最初、えんじ色のはかま姿で、背筋を伸ばした書道部員が一行に並んだ。「お願いします」と一礼した後、一斉に四方に散り、掛け声が飛ぶ。それを合図に音楽がかかり、舞台に当てられる多彩な光。その中で、用紙に向け霧吹きがかけられる。曲が激しくなるのに合わせ、動きも複雑化。大小様々な筆と、墨の入った小さなバケツを持った部員がリズムカルに何かを書いているのが見えるが、客席からは、はっきりしない。ただ、息の合った群舞が美しい。7分ほどで、用紙が立て掛けられ、書の全体が公開された。豪快な筆跡と、凛とした彼女たちの姿に、まるで一瞬の夢を見せられたかのようなようだった。

セッション1

我が経営を語る ～人事倒産の危機からの復活。 「四国で一番大切にしたい 会社大賞」受賞までの道のり～

大豊産業株式会社 代表取締役社長
乾 篤之氏



1949年に電気機材の卸売業として創業した大豊産業。89年に父親の会社を受け継ぎ、社長となった乾篤之氏は、リーマンショックを契機に、社内改革に乗り出す。しかし、一部の社員が造反。ストレスで体にも影響が出る中、人間性を高める訓練を始めた。そして、そこに会社経営の活路も見いだす。今、同社は心を大切にしている経営方針を掲げ、新しい分野にも挑戦する企業へと成長。「常に愛情を持って社員に接し、感謝と謙虚な心を持つ」ことの重要性を強調し、「日本一の感動企業を目指したい」と静かに語る乾社長に、会場から大きな拍手が送られた。

ご参加者の声 ICTを駆使して業務の合理化を図るのは普通だと思いますが、従業員や仕入れ業者を大切にすることも大事だという考え方を感しました。合理化より、人ということでしょうか。一時的に成果を上げられても、最終的には人を大切にしたい経営者が生き残る。経営に限ったことではなく、非常に哲学的であると感じました。大豊産業株式会社は、やりがいや充実感を持ちながら働き、多様な生き方が選択・実現できることを目指しているようです。

セッション2

人的ミスに起因するトラブルのプロジェクトへの影響と撲滅に向けた対策の研究

～LS研究委員会2014年度 Leading-edge Systems研究 最優秀賞～

日本貨物鉄道株式会社
経営統括本部
情報システム部
システム保全第二グループ
(総務・財務) 主席

松本 祐輔 氏



株式会社
YCC情報システム
システム部
公共システム課
担当課長

阿部 幹司 氏



ご参加者の声 人的ミスに対し、個人に対するアプローチのみではなく、個人と組織の両面からアプローチを行うという点で非常に興味深い内容でした。小冊子や診断ツールなどの具体的な手法についても、汎用性が高く有用性が期待でき、自社でも活用したいと感じました。

セッション3

サイバーセキュリティ時代にお客様・社会を支える富士通の取り組み

ご参加者の声 ウイルス感染の約80%がメールから感染とのこと。また、標的にされた場合、必ずと言っていいほど感染するそうです。理由として、標的専用ウイルスを作成するので、ウイルス対策ソフトでも、まだパターンファイルが作成されていないので防げないそうです。「狙われたら最後」という感じで、この話には驚きました。感染してもほとんど気づかないため、最近では、いかに早く感染を検知するかが重要だと話されていました。



富士通株式会社
統合商品戦略本部
エバンジェリスト
太田 大州 氏

懇親会

挨拶

富士通株式会社
執行役員専務
小野 弘之氏



乾杯

FUJITSU ファミリー会 副会長
鳥越 正敏氏



来賓挨拶

高松市 副市長
加藤 昭彦氏



LIVE 配信

富士通株式会社
代表取締役社長
田中 達也氏



中締め

石元支部長と
四国支部幹事の皆様



大会旗リレー

四国支部 石元支部長から
北陸支部 種池支部長へ



抽選会

四国にちなんだ賞品を会長よりプレゼント



アトラクション

阿波踊り
会員と一緒に
踊らにや損々♪



オプション行事 秋季大会2日目は、四国を満喫しました。

視察 A

紅葉の寒霞渓と二十四の瞳を訪ねて
～小豆島コース



コスモス咲く二十四の瞳映画村 寒霞渓からの眺望

視察 B

世界一の渦潮を体験！
～鳴門うずしお観潮船コース



鳴門海峡の渦潮 眉山からの眺望

視察 C

生誕180年、桂浜で龍馬に会おう！
～高知コース



高知城 桂浜

視察 D

坂上の雲と子規を知る道後温泉の旅
～松山城コース



道後温泉街 松山城

視察 E

金刀比羅宮参拝と
秘境“祖谷”かずら橋コース



祖谷のかずら橋 大歩危峡を観光船で

ゴルフコース

鮎滝カントリークラブ



参加者同士の交流も 広々としたコース